

もうとうに倦んでいるのに
足が動かず気恥ずかしい

降りた瞬間にそれまでのことは忘れて
エスカレーターで改札に向かう

階段を上る人を追い越す

今度はこれが私を運ぶ

緩やかに滑る繰り返し景色

生まれてきてくれてありがとうと告げる

愛は湿ったくるみに包まれる